

学融合推進センター 運営委員からのメッセージ

本ニュースレターでは学融合推進センター運営委員からのメッセージをご紹介します。

1. 物理科学研究科 依田 眞一 教授

本年4月より学融合推進センター運営委員となりました。総研大の特徴は、多種・多様な知識を活用し、異分野間の協力を踏まえて、これからの時代に必要な多様な専門性を持った学生の育成を図る事と理解しています。これからの時代は、ますますグローバル化が進み、学際的な知識を持つことが求められると考えます。例えば講義を行っている時、核分裂・核融合に関する話題を学生に問うたところ殆ど彼らは知識を持っていませんでした。現在の主要エネルギーは軽水炉ですが、その知識すら持っていないようです。我々が目指す高度な専門性と合わせて広範な準専門的知識を有する研究者・技術者を輩出するための事業として、学生セミナーや国際シンポジウム、サマースクール、共同研究支援等といった学融合推進センターの担う責任は多大な物がありますが、現状では決して十分とは言えません。このためには、総研大各教員の意識が大切であり、日本の科学技術立国としての再建に取り組むということを常に肝に銘じて学生と接する必要があります。また、教員、学生が積極的に分野を超えて知り合い、交流を深めることも必要です。学生のみならず、教員同士の交流から新しい研究事業、教育事業が生まれることも期待出来るでしょう。

このような交流の場の提供こそが学融合推進センターの最も重要な機能ではないでしょうか。総研大とは、まさにこの様な他分野との融合が可能な唯一の組織で有り、生かすも殺すも教員全体の意識次第と考えています。

2. 高エネルギー加速器科学研究科 齊藤 芳男 教授

「学融合推進センター研究事業の利用」

総研大の教育方針の大きい柱である「高い専門性と広い視野」の実現に向けてセンターではセミナーや学術交流会を企画実施しています。しかし、専門分野の研究に多くの時間を割かなければならない学生にとって、これらの企画に参加することは必ずしも簡単なことではないでしょう。センターでは、その点を費用対効果も含めて考慮する必要があり、実際に企画案を策定する際に様々な工夫をしていかなければなりません。

教育現場の基盤機関から見た場合、広い視野を持つためには、もちろん学生個人の読書や友人との会話も必要ですが、それぞれの各専攻としては、まず身近で実行できる方策を考える必要があります。専攻を跨いで共同で研究する方法はその一つで、学生が客観的に自分の研究を見つめる良い機会となります。その際に、センターが募集している公募型研究事業は有益で、実際、高エネルギー加速器科学研究科では、現在3つのテーマで共同研究支援を受け、他専攻の学生と共同研究を行なっています。まずは、テーマの近い他専攻との共同研究が視野を広げる取りかかりとなるわけです。

「一つの定理を本当に理解するには、その定理を発見した人の人となりまで知る必要がある」と物理学者の J. C. Maxwell も言っているように、そもそも高い専門性を磨くには視野を広げなければなりません。牽強付会に異分野のテーマを結びつけるのではなく、専門分野の中から広がりを作って行く必要があります。そのためにセンターの各種事業を活用することが、基盤機関の教員にとっては重要だと思われま

学術交流事業からのご報告

学融合推進センターの学術交流事業は、学生、教員間の専攻・研究科を越えた交流、さらに研究を通じた本学学生・教員の学外の人々との交流を促進することを目的としています。本事業は、学問領域を超えた交流機会を提供し、科学の総合化に寄与するとともに、学生の総合的研究能力の養成を目指しています。

<平成 24 年度 年間計画と運営体制>

1. 専攻を超えた交流機会の提供

専攻を超えた交流機会の提供として本事業が行っている事業には、全学規模の交流事業の提供、大学と他機関を結ぶ交流事業等があります。

事業名称	主な対象者	概要	実施状況
国際シンポジウム	総研大教員 総研大学生	総研大全体の研究交流を図るために、全学から教員・学生が集い、テーマに則した研究交流を行う。	平成 24 年度テーマ: 知の循環社会 (JSPS 国際集会採択) 開催日程: 12 月 13 日～14 日 開催場所: 総研大葉山キャンパス・湘南国際村センター 海外招聘者 2 名、国内講演者 10 名、学生参加可 実行委員会 4 回開催(委員長 曾根原 登) 平成 25 年度テーマ: 遺伝子と文化から明らかにする人類の多様性: アジア・オセアニアを中心に 実行委員会 1 回開催(委員長 斎藤 成也) 開催場所: 総研大葉山キャンパス・湘南国際村センター
学術交流会	総研大修士生 総研大学生	総研大生の縦と横の学術ネットワークを構築するために、修士生や在学学生、教員の研究を紹介する機会とする。	開催日程: 平成 25 年 3 月 21～22 日(予定) 学術講演・講演者: 杉本良男(比較文化学専攻)、小森彰夫(核融合科学専攻)、岡田泰伸(生理科学専攻)、鈴木厚人(高エネルギー加速器機構)、修士生 2 名 講演、講演会、学術展示ブース設営
JSPS サマープログラム	総研大教員 総研大学生 JSPS フェロー	総研大の国際的学術ネットワークを発展させるために、JSPS フェローとの交流機会を提供する。	オリエンテーション: 平成 24 年 6 月 13 日(水)～19 日(火) 開催場所: 総研大葉山キャンパス・湘南国際村センター 講演: プラシント・ハルテシ(国立国語研究所)、原隆宣(素粒子原子核専攻) 邦楽演奏: 安藤政輝(東京藝術大学名誉教授) 研究: 平成 24 年 6 月 22 日(水)～8 月 20 日(月) 報告会・送別会: 平成 24 年 8 月 21 日(火) 開催場所: ホテルグランドパレス(九段下) フェロー: 約 100 名(USA、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス)
学術ネットワーク調査	他大学等の学術ネットワーク関係者	他大学、他国の学術ネットワークの構築やその効果について調査し、学外との学術ネットワークを構築する。	名古屋大学・大阪大学(予定)を訪問し、関係者のインタビュー等事例調査を行う(11 月～1 月実施予定)。 学際力を高めるための戦略的教育プログラムのモデル構築ための調査(委託)
大学院教育研究会	総研大教員	教育学の専門家等の立場から、大学院教育に関する研究を行っている研究者による研究会を実施する。	2012 年度 第 1 回「対話する挑戦！参加型プラットフォームを考える」 開催日程: 6 月 8 日(金)10 時～17 時 開催場所: 地球環境パートナーシッププラザ 参加者: 51 名 2012 年度 第 2 回大学院における IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を考える 開催日程: 7 月 6 日(金)13 時～17 時 開催場所: アリアル五反田駅前会議室 参加者: 約 50 名 2012 年度 第 3 回「留学生と日本人学生が創り出すグローバルリーダー」 開催日程: 12 月 11 日 開催場所: TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 2012 年度 第 4 回「学習場面における、振り返りの活用」 開催日時: 2 月 3 日(日) 13 時～17 時 開催会場: TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

2. 総合的研究能力の養成

総合的研究能力の養成として本事業が行っている事業には、研究を遂行する上で必要な他者との①学際的コミュニケーション能力養成事業、自分の研究をキャリアに結び付ける②キャリア能力養成事業、問題を実践的に解決していく③実践的問題解決能力養成事業があります。

区分	事業名	概要	実施状況
①学際的コミュニケーション能力養成事業	学生セミナー	在学生在が企画した、新入生向けオリエンテーションセミナーを通じて、新入生の研究者としての意識の涵養と専攻を超えた学生ネットワークの構築への動機づけを高める。	*前学期学生セミナー4月12,13日開催 テーマ「つながる」 講演者：平井宏典(共栄大学) 縣秀彦(国立天文台) *後学期学生セミナー10月11,12日開催 テーマ「Follow your rainbow」 講演者：BYRNES, Tim(国立情報学研究所) SPEARS, Scott(國學院大學) 八巻恵子(東京国際大学)
	国際的プレゼンテーションセミナー	英語によるプレゼンテーションの基礎を学ぶ合宿型集中講義とその後、JSPS サマープログラムに参加し、JSPS フェローと研究交流を行うことで、英語によるコミュニケーション能力を養成する。	6月13日(水)～15日(金) 開催会場：葉山キャンパス、湘南国際村センター 参加人数：5名 プレゼンテーションスキルの集中講義および発表
	日本文化紹介コース	留学生が企画する、日本の文化や生活習慣を伝える合宿型事業。本事業を通じて、留学生を中心に異なる文化を理解し、交流をはかる能力の養成を目指す。	10月12日開催 国立民族学博物館における研究を学ぶ(葉山近代美術館アフリカンビーズ展) 日本の伝統美術を学ぶ(山口蓬春記念館) 日本の伝統建築物の見学と茶道の作法を学ぶ(浄妙寺喜泉庵)日本の伝統建築物の見学を通して日本文化を学ぶ(鶴岡八幡宮)
②キャリア能力養成事業	研究者入門	大学院生自身が研究者になるためのポイントをつかみ、より広いコンテキストで研究者のキャリアを考える機会を提供する。長期的な目標を持ち、戦略的に研究を推進するキャリア設計能力の育成を目指す。	7月14日(土)～16日(月) テーマ「トビダスチカラ ハミダスチカラ」 開催場所：本学葉山キャンパス 参加人数：12名(学外5名) 講師：13名(学外招聘講師9名)
③実践的問題解決養成事業	学生セミナー実行委員会	コミュニケーション形成に関するプロジェクトの企画運営に携わらせることにより、研究を推進する上で必要な他分野の研究者との対話力、社会との対話力、社会への発信力を養成する。 実行委員は学生セミナーでこの成果を発表し、「研究者としての意識の涵養と専攻を超えた学生ネットワークの構築への動機づけを高める」ことに繋げる。	*社会への発信プロジェクト：12月15日「レンアイをかガクする」開催予定 *学際ネットワーク構築プロジェクト 10/27.28 核融合の施設見学&交流会 11/24.25(予定) 日文研・民博の施設見学&交流会 12/23.24(予定) 天文・宇宙の見学&交流会 *10月末までに全体会議3回、各チーム会議各2回開催。今後11～3月にかけて会議(全体会議2回、各チーム会議各1～2回)を行い、各チームの活動をまとめ、学生セミナーを企画。
	学生企画事業	学生が専攻を超えてプロジェクトチームを編成し、事業を企画し、実施する。このプロジェクトの予算は学生が学内でのプレゼンにより評価を受けて獲得する。本事業を通じて、学生の実践的企画運営力を養成する。	GakuSayNet 異分野交流会 9月15日『分野を超えたコミュニケーションで起こる問題を考える』交流会開催 開催場所：大阪大学中之島センター 参加者：20名 企画委員会：6月17日 企画委員：総研大・奈良先端大・北陸先端大学生 3月2日『第3回 GakuSayNet 交流会』開催予定 企画委員：総研大・奈良先端大学生 研究に関する情報の保護と利活用を考える会 「研究活動から生まれる情報の扱われ方」スカイプ研究会・「研究情報の扱い方について」勉強会

3. 運営体制

本事業は、事業運営を岩瀬、学生支援を山田、事業評価を奥本、全体の統括を颯田が担当しています。

『CPIS Report』を創刊

学融合推進センターでは本学における学融合の推進を目的として「CPIS Report」を創刊いたしました。CPIS Report はレポジトリベースで不定期に発行される機関誌であり、総研大レクチャーなどの内容をまとめた講義録(Lecture)、センター活動のまとめ(Review)、そしてオリジナルの学術論文(Article)によって構成されています。

第1号 Report として、核融合科学研究所にご所属の井口春和准教授が昨年度に行いました総研大レクチャー「科学における社会リテラシー」の講義録「エネルギー環境問題」が発行されております。

出版された Report や投稿に関する規定につきましては学融合推進センターのホームページ上にてご覧いただけます。是非ご覧ください。

学融合推進センター出版物: http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page_id=27

学融合推進センター その他の事業予定

11月から来年1月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページ等に掲載される予定です。申込みが必要な場合もございますので、ご確認の上ご参加ください。

- 戦略的共同研究Ⅱ「脳の進化-大脳新皮質の起源を尋ねて」研究会
@総合研究大学院大学葉山キャンパス 11月12日(月)～13日(火)
- 総研大精選講義 「量子力学概論」
@総合研究大学院大学葉山キャンパス 11月20日(火)～22日(木)
- 学融合研究事業 「学融合研究事業の在り方検討会」
@学術総合センター 12月3日(月)
- 大学院教育研究会 第8回「留学生と日本人が作り出すグローバルリーダー」
@TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 12月11日(火)
- 国際シンポジウム「知の循環社会-グローバル融合社会における情報循環ネットワークの創成」
@湘南国際村センター 12月13日(木)～14日(金)
- 科学知の総合化プログラム「学術映像のタベ2012」
@鎌倉芸術会館 12月20日(木)
- 総研大レクチャー「科学技術倫理と知的財産権」
@放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター 1月17日(木)～19日(土)
- 総研大レクチャー「プレゼンテーションセミナー2013」
@放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター 1月18日(金)～20日(日)
- 学融合研究事業 「公開研究報告会」
@総合研究大学院大学葉山キャンパス 1月24日(木)～25日(金)

総合研究大学院大学 HP: <http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

編集委員会より

日に日に寒さも増し、冬の訪れを感じる季節になりました。上記に記載いたしましたように学融合推進センターでもこの数ヶ月間に多くの事業が予定されております。また、少しずつではありますが、来年度の各種公募に向けた準備なども進められているところです。運営委員の先生のメッセージにもございますように、学融合推進センターの活動は本学全体との協力の上に成り立っております。今後とも各種事業への積極的なご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

(文責: 学融合推進センター 助教 見上公一)

学融合推進センター HP: <http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/>